北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

ジャガイモ

校長通信　№２２６

令和４年１２月　５日

「 オーディション ～第48回文化祭④～ 」

校長　江　口　　満

【前号からの続き】学年集会を終え、心配になった私は三年生の教室に上がった。教室ではキャスト・スタッフ希望調査が配られている時間帯だった。各クラスからワイワイガヤガヤという声が聞こえてくる。「どの役がいい？」「キャストやってみようか。」「ダンスやってみたい。」などの声。集計してみると予定していたキャストの数より立候補者の方が多いではないか。「誰もキャストに立候補しなかったらどうしよう。」という不安は、一気に嬉しい悲鳴に変わった。オーディション次第では、残念ながらキャストになれない生徒が出てくる可能性が生まれた。

7月に入ってキャストを希望する生徒を一堂に集めた。再度、それぞれの役柄を伝える際、担任に戻ったような高揚感を覚えた。希望する役を書いてもらい、台本の一部を配布し、後日オーディションを行うことを伝えた。複数の希望者がいる役もあった。オーディション当日、台本の一部のセリフを言ってもらう。どの生徒も真剣だった。その結果をもとに、学年の先生方と配役を決めていった。キャストの数より希望した生徒の数が上回っている。しかし、一生懸命に立候補したのだから、希望者を落とす訳にはいかない。私は、急遽、台本の修正作業に取りかかった。生徒役、先生役、ブラックパンサーなどの役を増やし、セリフも分担した。希望者は全員何らかの役に当てはめたが、希望通りの役になった生徒の方が少なかったと思う。

オーディション結果の発表。選ぶ方も選ばれる方も真剣勝負だった。「11月3日の文化祭、たった一日の公演です。文化祭以降、もう二度とこのメンバーでこの演劇をすることはありません。そして、今決めた役は、あなたしかいません。だから今から約4カ月間、この役の人物と一緒に生きていってもらいたい。」と私は語った。【次号に続く】

「最初で最後の大行事」　３年１組　Ｙさん

最初で最後の大きな行事、文化祭を終えて達成感があり、三年生の一員となって終えた文化祭、最高でした。一人一人に与えられた仕事を黙々と取り組む姿は、一年生の頃と比べてみても少しは成長したかなと思いました。

今回の行事で私が一番頑張ったのがキャストです。7月ごろから決められたメンバーで取り組んでいて、初めはこんなに長い劇を覚えきらんよと思っていたけど、毎日校長先生が指導してくださったおかげで、思っていた以上の劇ができて、とてもうれしかったです。本番もキャストのみんなが自分の役になり切って、動いたりセリフを言っていたりしていたので悔いのない劇ができたと思います。

あと四カ月、受験もあるけど、思い出に残る三年間だったなと思えるように、残りの時間を大切にしていきたいと思います。

「一生に一度の文化祭」　３年４組　Ｈさん

今年の７月、文化祭の練習が始まった。最初は番野春子になり切ることもできず、先生が言う言葉の言い方も分からず、何もかも分からなかったし、面白いと思うことも楽しいと思うこともなくて、何度もやめようと思った。でも練習をするにつれて、言葉の言い方にも慣れ、はずかしさもなくなり、自分なりの言葉の言い方にしてみて、自分だけにしかできない番野春子を完成させることができた。

そして、本番一週間目初めて、最初からの通し練習が始まったが、ちょこちょこ言葉がつまって大変だった。でも本番では、一、二年生が笑ってくれるぐらいの大成功で、最後の文化祭は幕を閉めることができた。文化祭が終わって、これまでのことを振り返ってみて思うのは、中学校生活で一番大変でとても楽しい日々が送れた四ヶ月だったと思う。

「初めてなのにすごい」
３年１組　Ｍさん（音響係）

音響係三人で和室に初めて行ったとき、「初めてなのにすごい。」と校長先生にほめていただけたのがうれしかったです。実際は仕事をする前は不安が大きかったですが、意外と単純な作業で、これならやれそうと思いました。しかし、体育館に入ってからはミスやトラブル多く、本番でも私がミスをしてしまい、キャストの人に迷惑をかけてしまったのがすごく悔しかったです。失敗をしてしまいましたが、キャストに負けない団結力で楽しい思い出を作ることが出来たと思います。

またずっと一緒に練習してきて、キャストやダンスの人たちがどんどん上手くなっていくのを見れたり、本番でアドリブを入れたり、練習より面白おかしく演じているのを見られたのが、個人的にうれしかったです。大きな行事がほとんど終わってしまい名残惜しい気持ちはありますが、勉強も頑張りたいと思います。

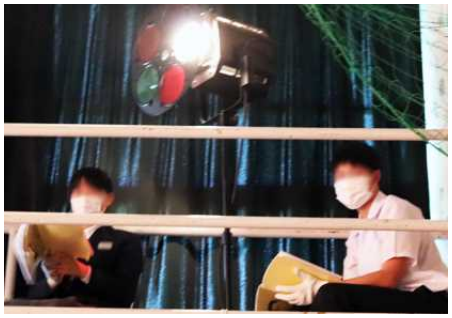
「文化祭というメインイベントを終えて」
３年２組　Ｉさん（照明係）

私たちは、一、二年生ではハンドクラップやリコーダーでの演奏だったけど、三年生になって初めて本格的な演劇をした。初めは不安がとても大きかったけれど、校長先生を中心に一生懸命日々練習をしていくなかで、私が担当する照明の仕事の役割の大切さに気付くことができ、とてもやりがいを感じました。特にやりがいを感じたときが、一、二年生や保護者が見ていた本番の日でした。観客がいてとても緊張感がはしり、練習の時とは違う空気の中、演劇が終わり拍手が聞こえた瞬間、とてもやりがいを感じました。

一、二年生の演奏では、私が不得意とするリコーダーや尺八を余裕そうに上手く演奏していてとてもすごいなと思いました。文化祭で様々な体験をすることができ、とても良い思い出になりました。

「一番楽しかった文化祭」　３年３組　Ｎさん（照明係）

僕は今回の文化祭で照明係をしてみて、キャスト以外の仕事の大切さを学びました。中間考査が終わり、みんなそれぞれの係で仕事が始まったが、僕たち照明係は体育館での練習が始まるまで練習ができなかったので、キャストの練習を見て劇の流れを覚えました。そして体育館で照明の練習が始まって、校長先生から台本に書いてなかったことも沢山教えてもらって、僕は思っていた以上に照明の仕事が多くて、びっくりしました。



そして何度も練習して迎えた本番。僕は最初の開会式から昨年よりも盛り上がっているように感じました。箏曲部の演奏や英語スピーチ、一、二年生の演奏などを見て、昼食後、いよいよ三年生の演劇が始まった。キャストの人たちは、いままでより気合が入っていて、すごいなと思いました。ダンスチームも会場を盛り上げていてすごかったです。また僕自身も失敗なく仕事を終えられてよかったです。今年の文化祭は、僕にとって一番楽しかったです。